

「令和8年度地域完結型医療推進ワーキンググループ運営支援及び新たな地域医療構想策定支援業務委託」
質問回答書（令和8年4月17日）

No.	質問内容	回答
1	<p>ICT環境について受託者が提供すること（オンライン開催に必要な撮影・收音機材、配信用回線、オンライン会議アプリおよび必要なアカウントその他については受託者が準備する）とありますが、準備内容として、例えば遠隔実施する学会発表並みの専門業者を介しての充実した設備を想定しているか、もしくは社内の遠隔会議のような一般的な設備で良いのか、想定される提供設備のレベル感を教えてください。</p>	<p>本業務において求めるICT環境は、円滑なオンライン会議および資料共有が可能な一般的な水準のものであり、学会発表等で用いられるような専門業者による高度な配信設備までは想定していません。なおワーキンググループの実施規模は概ね15～20団体程度の参加（1団体あたり1～2名程度）で60分程度の実施を考えています。対面での開催を前提と考えていますが、開催時間や場所により一定程度オンライン参加を希望される方がいることを想定しています。 参加者間で支障なく議論が行えることを前提に、必要な機材・通信環境・オンライン会議アプリ等を受託者において適切に選定・準備してください。</p>
2	<p>貴市が目指す「地域完結型医療」について、「地域完結」をどのような範囲で捉えていますか。地域医療構想における構想区域内での完結を想定しているのか、あるいは市内7方面等も含めて考えているのかなど、現時点で想定している考え方や、これまでの協議内容があれば教えてください。</p>	<p>「地域完結型医療」は、一人の患者さんに対し、一つの病院で全てを抱え込むのではなく、病院それぞれの強みを活かして役割分担をすることや、在宅医療・介護や高齢者施設などとの連携を通じて、「地域全体で」支えていく体制を目指すものと考えています。 「地域完結」の具体的な範囲については、現時点で一律に定義しているものではありませんが、地域医療構想における構想区域や市内の医療提供体制等を踏まえつつ、主に地域中核病院等を中心とした市内7方面の圏域において機能することが考えられます（圏域を越えた連携を否定するものではありません）。また、実質的な患者の流動性等を考えると、必ずしも構想区域内で全て完結するものではないとも承知しており、構想区域の枠を越えた連携についても議論や地域性によっては検討の視野に入れることを排除するものではありません（なお現時点で構想区域外の医療機関等をWG構成員に含めることは想定していません） 本市では、昨年度は東部・南部の2方面において、病院間の連携にとどまらず、在宅医療や介護・高齢者施設まで参加する議論を先行して進めてきました。協議内容としては、ポストアキュート連携（基幹病院・地域病院の役割分担、入退院連携）、在宅医療・高齢者施設連携、地域医療介護情報連携ネットワークなどをテーマに議論を行いました。今年度はその成果をもとに、「地域完結型医療推進ワーキンググループ」として7方面で全市展開し、医療機関間の連携を深めるとともに、医療と介護がスムーズにつながる体制を強化していく考えです。</p>
3	<p>本業務では、地域完結型医療の実現に向けたワーキンググループ内の意識醸成や、今後の行動化の促進を重視していると理解していますが、令和8年度末時点で想定している成果や評価の観点があれば教えてください。</p>	<p>本業務においては、主に各方面における「地域完結型医療」の在り方について、関係者間で共通認識を形成し、今後の取組につながる議論の土台を整えることを主な成果として想定しています。 具体的には、これまで東部・南部方面で進めてきた議論や取組を踏まえつつ、医療機関の役割分担や連携の方向性、医療と介護を含めた地域全体での支え方などについて、ワーキンググループの中で課題や論点が整理されていることが一つの到達点と考えています。 また、こうした整理を通じて、市内7方面での展開や今後の地域医療構想の検討につながる視点や示唆が得られることを期待しています。 現時点で確定的に評価軸や視点を定めているわけではありませんが、先行実施実績を鑑みると、後方病床連携や包括期病床へのポストアキュート連携、高齢者施設等とのサブアキュート連携、入退院支援連携の充実やEHR活用、ACP普及啓発など、幾つかの主要論点はあるように考えています。新たな地域医療構想策定の議論も踏まえつつ、検討を進めていくものと考えています。</p>